

第1回輪島塗の若手人材の養成施設の整備等に関する基本構想実行委員会
議事概要

- 1 日 時 令和8年4月17日（金） 13：00～14：30
- 2 場 所 能登空港ターミナルビル4階 42・43会議室
- 3 出席委員 名簿参照
- 4 議事概要

（1）説明事項

事務局から資料に基づき説明

（2）意見交換

- このプロジェクトは、日本の文化の発信という意味でも、文化の担い手の育成という意味でも大変意義のある取り組み。文化財の保存・修理に必要な原材料や道具の確保にもつながるのではないか。
- 現在、約8割の輪島塗事業者が輪島に戻って事業を再開する一方、若い世代の作り手が将来に不安を感じ、産地を離れてしまうことを懸念している。輪島塗に関わる者にとって若手人材の育成は大きな希望。引き続き、ハード、ソフト両面からプロジェクトを進めてほしい。
- 輪島塗の良いものを世の中に出していくには、作り手を育てていくことが重要。一番大切なのは骨格となる素地。漆器業界として素地の作り手をどうやって育てて、輪島の中にとどまっていたか大きな課題。
- 輪島塗を持続可能な産地とするため、海外マーケットも開拓していく中で、職人の養成施設があって、輪島ではこうやっているから勉強しようという輪島モデルができればいい。インターンシップや産業観光では、素地も含め作り手の仕事を見ていただけるような場面を設定してほしい。
- 漆芸の聖地という目標に向かって着実に前進していると感じる。海外展開で成果を挙げるチャンスは十分にある。日本の伝統文化がもつ内面の精神性といった日本の守るべき伝統を守りながら、欧米の傾向も理解して作品をつくっていくという方向がありえるのではないか。
- 養成施設で学んだ方が業界や輪島に残ってどれだけ仕事をしていただけるかが重要。やっていけると思ってもらえるようなシステムづくりに取り組んでほしい。県と市で連携し効率よく取り組んでほしい。

- 漆芸の聖地を目指す取り組みにより、世界から優秀な人材が集まり、輪島で一流のものができて、一流のマーケットにしていくというかたちがいい。国際的な拠点という視座をもち、日本の精神性を守りつつ、海外のマーケットに合わせていくような柔軟性も重要ではないか。
- 海外ではどのようなかたちで受け入れられるかというマーケティングも大切だが、近年は特に日本でやっていることをそのまま海外に発信していくことが重要。やるべきことをやっていけば海外では必ず共鳴してくれる人がある。海外マーケットとつながるよう協力していきたい。
- 漆芸の聖地を目指した取り組みを通じて、輪島塗の関係者は復興しなければならないということを強く感じるようになってきている。持続可能な復興を目指し、輪島塗の海外ブランド化に挑戦する中、このプロジェクトは大変心強い。引き続き、ご支援いただきたい。
- 「漆芸の聖地」というコンセプトは素晴らしい。世界で活躍されている方々に関わっていただけるとは心強い。着実に漆芸の聖地になっていく階段を上っているのではないかと感じる。輪島市ともしっかり連携・協力しながら取り組んでいきたい。
- 人材育成の一つの視点として「販売」を盛り込むことは大変すばらしい。日本できちっと育てた本物は、必ず海外でも通用する。そのことを念頭にみんなで知恵を出し合いながら、養成施設の構想をしっかりと進めていきたい。

以上